

釜石市立小・中学校における

学校規模の適正化・適正配置基本方針(案)地域説明会 結果概要

日 時 令和6年2月16日(金) 18時30分～19時30分

場 所 鵜住居地区生活応援センター

参加者数 17人

事務局 教育長ほか8人

【質疑応答】

○Aさん スクールバスの利用について、今住んでいる場所が川目地区で、中学校に入った時に自転車通学の範囲だが、中学校の4km以内という基準を変えることはできないものか。生徒数が少ない中で、例えば、栗林から東中学校に通う生徒たちがスクールバスで来る中、1、2人が自転車通学するというよりは、スクールバスと一緒に含めて通学できるような形をとっていただきたいと思う。

○Bさん 今のお話は、学校運営協議会とかに出席した際によく出てくる話で、小学校の時は川目の方々もスクールバスで通学しているが、中学校に入ると4kmという縛りになってスクールバスが利用できなくなるのでなんとか利用できるようにしてほしい、という要望がいろいろな会議で出ている。そのことを言いたかったのかと思う。

○学校規模適正化推進室課長 スクールバスの基準について、中学校は6km以上、小学校は4km以上というのが、国が示している基準になる。釜石市の場合は、それを緩和した形で小学校はおおむね2.6km以上、中学校はおおむね4km以上という形でスクールバスの運行をしている。

「小学校の時にはスクールバスに乗れたのに、中学校になったら乗れなくなってしまった」「目の前をスクールバスが走っているので、それに乗せてくれたらいいのに」というのは親御さんの率直な気持ちだとは思う。ただ、こちらとしても、市内全部そういう基準でやっているのだから、一カ所緩和してしまうとほかのところに影響が出てしまうところもある。親御さんの気持ちはよくわかる場所なので、そこは今後、内部でも話をしていきたい。

○教育長 スクールバスの運行については、いろんなところから要望を受けているところである。ただ基準はそういうことで、釜石市の場合は、中学校6km、小学校4kmというところを、いろいろな要望で緩和して現在4kmと2.6kmという基準を設けているところである。

ただ、いずれにしてもいろんな状況があると思っている。子どもたちの通学路の状況で、例えば暗い中を歩いていかなければならないなど、いろんな状況があることも事実である。そういった部分も検討しながら、市全体として考えていかなければならない部分もある。

中学校の4kmを例えば3kmにした場合、今度は2.何キロのところは使わせてもらえないのか、そういうところが出てくるということもあるので、ある程度の基準は設けさせていただきながら、地域的な実情も考慮しながら検討していく必要があるかと思う。もう少し検討のお時間をいただきたい。

○Cさん 今日の説明会は、どのようなアプローチの仕方で人数がこれだけなのか、その説明をお願いします。

○学校規模適正化推進室課長 今日の説明会については、幅広くいろんな方にいらしていただきたいということで、各小中学校のPTAの皆さんには通知を配布させていただいた。また、広報やホームページ、各地区の応援センターだよりなどでも周知をさせていただいたところである。

おそらく、参加者の人数が少ないのではないかと、ということだと思うが、今後、推進計画をつくっていく段階では、各学校などに出向いてお話をさせていただきたいと考えている。

○Cさん 実際に広報してこれだけということは、あなた方は仕方がないという発想だと思う。結論を出す前にもっと多様な意見を聞くべきだと私は思う。

おそらく学校の話だけではなく、人口が減っているからこうなんだろうが、とにかく学校統合の話になっているわけで、暗い話になってしまっていて、もっとも今の若い人たちに、お父さん、お母さんたちにこの緊迫感が伝わるような、何か画策をしてほしいなと思う。

○教育長 教育委員会としても、若い方、これから子育てする方の意見をどんどん聞きたいと思っている。そういった意味で小中学校の保護者だけではなくて、これからお子さんを小学校に入れるという保護者の方にも、アンケートをお願いしている。

確かに周知とか、もっと、というところはあると思うので、ぜひ説明する機会を持ちたいと思うし、ぜひ説明をしてほしいということであれば応えていきたい。

本当は、人口が増えてということであれば、また状況も変わってくるころだと思うが、教育委員会としては、子どもたちが減少する中で、子どもたちの教育環境をどうしたらいいのか、というところを今から考えていかないと、具体的なところで、まだまだ時間がかかってくるのではないかと考えている。そういった中で議論を始めていかないと、という

思いもある。

今回、この基本方針(案)を、教育委員会としては、児童生徒の減少の面からこういうふうに考えていきたいというところをお示しした。人口をもっと増やす方策も考えるべきじゃないかとか、いろんなご意見があるところは十分承知しながらも、この現状をどうしていくかというところから、基本方針(案)を示した。

決して後ろ向きというわけではなくて、昨日も中妻地区で説明会があったが、学校統合を考える上では、子どもたちがやっぱり統合してよかった、こういうふうになってよかったと実感する、そして、保護者の方の希望をある程度考えた中で、子どもたちの教育が充実するというのが大事なところじゃないか、という指摘を受けた。そのとおりだと思う。ただ単に統合するというのではなく、その背景には、子どもたちの教育をどう充実させていくのかというところを大事にしながら進めていかなければならないと、改めて感じたところである。

また、学校統合はまちづくりとの関係もあると思っている。今までは小学校、中学校がある程度の数があって、その中で学校と地域が結びついて、学校が中心となって、そこに地域の人々も集まって、そして活性化したりとか、繋がりができてきたというところがある。逆を言うと、学校統合というのは、そういった部分をどうしていくかということも、合わせて考えていかなければならないのかなと思っている。

例えば、地域からすると自分の近くのところで学校がなくなったとしても、それで地域との関係が薄れるということではなくて、その中でどう地域づくりを考えていくか、地域の中で子どもたちをどう育てていくのか、どう育てていくのか、というところは、私は変わらないというふうに考えている。そういった部分も考えながら、進めていくことも大事なことと思っている。

○Cさん これはまだ方針で、仮に、ここで鶴住居から学校をなくするという話になると、ここにおそらく1,000人くらい集まると思う。そういうところからひも解いていくのも方法なのかと思った。

○教育長 具体的に「どこの学校と、どこの学校をこういうふうにします」という説明であれば、皆さんの関心は高く、もっと集まるのではないかと思う。今回はまだ具体的などころではなくて、その前のこういう考えのもとに、やっていきたいというところ。そういった部分でちょっと関心が薄いというところもあると思う。

ただし、教育委員会としては、まず基本方針(案)について皆さんに説明して、いろいろなご意見を伺いながら、こういう方針でいいのではないかというところを、一つ確認した上で、次の推進計画、具体的な部分の策定に進みたいと考えた。そのほうが丁寧なのではないかという思いがあり、今回のような形で進めたところである。

○Cさん 丁寧に行っていることはわかるが、3月の時点で鶴住居はこういうわけだから学校をなくしますというのが決定するのか。

○教育長 3月の時点では決定しない。3月の時点では、今、基本方針（案）なので、案を取るということ。そして、この方針で皆さんの了解を得ながら、次の段階として、具体的にこの方針に基づいて、統合するのであれば、どういうふうな統合の形がいいかということ、さらに令和6年度に検討したいということである。

具体的な推進計画の策定になれば、より地域の皆さん方にいろんなご意見を伺いたいと考えている。

○Dさん 今回の案を見て、致し方ないと思う。人口減少していく中で、子どもたちが少なくなっていくことは当たり前のことだし、かといって釜石市の人口が増加する起爆剤が見られないというか、いい話がないものですから、仕方がないと思う。

やはり適正化しないと、子どもたちがせつかくの小学校6年間、合わせて9年間、例えば、好きな部活をできない部分もあり、釜石市は横に広いのでなかなか難しいと思うが、うまく統合できるなら統合しながら、子どもたちにいい時期を過ごしてほしいと私は思う。

どうやったら人口が増えてくれるのかというところは、教育委員会ではなく市の行政のほうになるので、そちらはそちらで期待しながら、今回は仕方がないと思う。変な話、最終的には釜石市に1校だけでいいのではないかというふうになるのではないかと危惧しているが、そうならないようになってくれればと思う。

○Eさん 今の話につながるが、本当に多くの人で話し合いたいのであれば、企業とか本当に関心持ってくれる人たちを集めることも考えたほうがいいと思う。あと、今、学校に通う前提でこうなっているが、通えない子も増えているというのもよく聞くので、そのフォローも一緒に考えていただきたい。

○学校規模適正化推進室課長 ご意見として承りたい。

○Fさん 栗林小学校は、何年か前に橋野小学校と統合した経験がある。統合の際に、地域の方からいろんな意見が噴出してきた事実があって、実際にPTAの思いと地域の方々の思いが、ちょっとすれ違いになってしまったりとか、そういう傾向にあるように思う。

地域にとって学校がどういった存在なのかというところや思いがそれぞれある中で、やはり幅広く意見を求めるというのはそのとおりだと思う。だが、次のステップになると思うが、統合される側であろう学校、あるいは学校区あたりには手厚く説明だったり、意思統一する作業を下積みでやってほしい。実際に統合するとなると、統合が決まっていた

のが、例えば、学校の名前をどうするのか、校歌を変えなければならないのではないか、いろんな話が出てくる。その板挟みになるのが実はPTA。地域のえらい方々に実際にそうは言われつつも、でも学校としては存在しないと仕方がないというところもありつつ、板挟みになってしまうので、苦しまないように事前に少しずつ調整していただけたらと思う。

○Gさん 基本方針（案）の21ページのところの、中学校の教科担任の状況の図式のところを見ると、やはり中学校は3年間しかなく、3年間の学びの後に子どもたちは進路を選択する大事な時期を迎えるので、やはり、子どもたちを一番に考えると、学びの充実というところが大事なのではないかと。そういうところで、非常勤の先生方や免許を持っていない先生の指導というところは、やはり子どもたちにとっては充実させるべきところなのかなと。そういう子ども重視の観点でいくと、適正化を今から皆で検討することは大事なことなのかなと思う。

適正化が現実化されるのは、私たちの年代ではなくて、今未就学のお子さんたち、親御さんたちだと思うので、この話し合いをいかに未就学の、今の若い子育て世代のお母さん、お父さん、お子さんたちに周知していくかも、大きなポイントなのではないかと感じた。

もう一つは、8ページと9ページに小中一貫教育とか義務教育学校という言葉が出ている。今釜石市は取り入れていないので、言葉では理解しているつもりでも、実際にはどのような学校の形態なのかわからないことだらけなので、もし導入する方針に向かっていくのであれば、これらに関する実践的な取り組みの周知というところも、これからの話し合いの中で必要になってくるのではないかと。

とにかく、こうやって皆で子どもたちのことを考えることは、未来志向の考え方だと思う。そして地域説明があったのは今回が初めてなので、もっと検討を深めるという意味では、どうか回を重ねてこのような機会を持っていただいて、話を深めながら実現の方向にもっていければ、私たちも、また周りを誘って話し合いに参加したいと思う。

○学校規模適正化推進室課長 未就学児のお子さんをお持ちの保護者の皆さんへ、ぜひ、足を運んでいただけるように、あるいはこちらから出向くということも、もしかしたら必要かもしれないので、その辺も今後、取り組みの中で検討していく。

また、小中一貫教育についても、隣の大槌町さんでは実践されているが、釜石市では実際に行っている学校はない。子どもとしてもその辺については、勉強をしていかなければならない部分である。皆さんとも一緒に勉強する機会があるとよろしいかなというところも考えている。

今日の基本方針の説明会は、これがまず第一歩、地域に出たの初めての説明会である。ここから次の計画づくりに向けてステップを重ねてくというところになるので、皆さんには今度とも足を運んでいただき、率直なご意見をいただければと思っている。